

平成25年度事業報告書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

平成26年5月22日

理事会決議

公益財団法人日本宇宙少年団

目次

I	はじめに	3
II	平成25年度に実施した公益目的事業（公1） （公益目的事業会計）	
1.	宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業	4
2	青少年の連携及び交流の促進事業	5
3	宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業	12
4	その他の事業	17
II	平成25年度の法人運営（法人会計）	20

I はじめに

公益財団法人日本宇宙少年団（(公財)YAC と省略します。）は、1986（昭和 61）年に財団法人として発足し、内閣総理大臣による公益認定を受け、2012（平成 24）年 8 月 1 日に、公益財団法人となりました。

公益認定を受けた(公財)YACの事業

（平成 24 年 7 月 19 日付 内閣総理大臣による認定書）

未来を担う青少年を対象に、宇宙及び科学をテーマとした体験・体感型学習を通して興味や関心を喚起させ、青少年の宇宙への夢を育む人材育成事業

収益事業等 該当なし

(公財) YAC は、当面の活動の基本方針を次の通りとしています。（平成 24 年度事業計画の「はじめに」から引用）

自然環境の保護や生命の保全など、様々な問題が人類にとって緊急な課題となっており、YAC 活動を通じて、次世代を担う青少年及びその家族に、これらの課題について考える重要性を伝えること、を目的として

- ⇒ 青少年の宇宙への夢を育む人材育成の推進のため、全国の YAC 連携団体を拠点として、地域・地区の宇宙教育活動を支援する。
- ⇒ 青少年の資質の向上を図るため、YAC 活動の内容を高め、社会からの高い評価を維持する。
- ⇒ YAC の活動を継続的に促進するために、これまでのノウハウを集結し、業務の効率化を図り、経営資源の向上を目指すとともに、自主事業への賛助金等の拡大によって、財政基盤の確立を図り、経営の安定化を目指す。

(公財)YAC は、上記の基本方針に基づいて、平成 25 年度事業計画に基づき、宇宙・自然・交流をテーマとした次の公益目的事業を実施しました。

1. 宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業
2. 青少年の連携及び交流の促進事業
3. 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業
4. その他の事業

Ⅱ 平成25年度に実施した公益目的事業（公1） （公益目的事業会計）

1. 宇宙及び科学に関する知識の普及啓発事業

子ども達に宇宙や科学への興味や関心を持たせる。

小惑星探査機「はやぶさ2」プロジェクトの応援

- 【目的】 JAXAが募集する小惑星探査機「はやぶさ2」に名前やメッセージを載せよう！キャンペーンに参加し、子ども達へ小惑星探査に興味や関心を持たせ、「はやぶさ2」に関するミッション等の普及啓発を目的とする。
- 【実施方法】 「YAC打上げレポート in 種子島」と「ミッションXオランダ」に参加したYAC団員の子ども及び一般の子ども達が家族や友人、海外の仲間へ「はやぶさ2」ミッションがどういうものかを説明し、たくさんのメッセージや寄せ書き等をもらった。
- 【実施結果】 参加した子ども達を通して、100名以上を超えるのメッセージや寄せ書きをもらい「はやぶさ2」プロジェクトの応援の輪を広げる活動を行うことができた。

イプシロンロケット打上げ応援プロジェクト！

- 【目的】 YAC団員および一般に小惑星探査機「はやぶさ」を打ち上げたM-Vロケット以来の新型固体ロケットで、少人数、短期間、小さな施設という、新しい打ち上げスタイルのイプシロンロケットに期待と関心を持たせ、「新型イプシロンロケット」に関する普及啓発を目的にYAC独自の応援プロジェクトを実施する。
- 【実施方法】 web上で企画を公開し、「イプシロンロケット打上げ応援プロジェクト参加説明用紙&応援折り紙」をダウンロードできるようにした。全国からイプシロン型折紙にメッセージをもらう。応援メッセージは千羽鶴形式にして応援の束をつくり、後日JAXAへ届ける。
- 【実施結果】 180通の折紙メッセージが届き、「イプシロンロケット」応援の束を打上げ成功後に、YAC団員の代表者がJAXA御茶ノ水事務所広報部長へ届けるセレモニーを行った。その応援プロジェクトの様子は、ニュースで紹介され、イプシロンプロジェクトチームからも御礼のメッセージをもらい、YACページで紹介を行った。



2 青少年の連携及び交流の促進事業

幅広い年齢の集団活動を通して、宇宙開発に関する学習や生活を共に過ごすことによって、子ども同士の連携や心を育む。

(1) 種子島スペースキャンプ

種子島スペースキャンプ

(鹿児島県宇宙開発促進協議会助成金事業：公益事業収入)

【目的】 水ロケットや天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、自然体験活動、野外学習を通して、仲間作りの方法や社会のルールを学び、生活体験や自然体験からの感動する心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【タイトル】 種子島スペースキャンプ2013

【時期】 平成25年8月19日～22日（3泊4日）

【場所】 種子島全域（南種子町自然の家、種子島宇宙センター他）

【参加人数】 小学生42名（うちYAC団員15名、招待参加者10名）

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【共催】 日本宇宙少年団鹿児島地方本部

【協賛】 ㈱南九州ファミリーマート

【後援】 鹿児島県、南種子町、中種子町、西之表市、鹿児島県宇宙開発促進協議会

【協力】 南九州コカ・コーラボトリング㈱

【実施結果】 参加者である子どもたちは、年齢や出身の異なる集団の中で学習し生活を共にすることによって、コミュニケーション能力や協調性の向上、さらにはお互いを思いやり助け合う心を育むことに繋がり、本キャンプを通じて身も心もひとまわり成長させることができました。

また、全国17もの都道府県から参加者が集まり、参加者アンケートからは全国の友達をたくさん増やすことができよかったという内容が多くみられました。

【実施概要】 宇宙・自然・交流をテーマとした宇宙開発に関わる学習、自然体験活動、野外学習におけるプログラムを立案し、小学4年生～中学3年生を対象にスペースキャンプを行っています。今回のプログラムは、宇宙開発に関わる学習では、南種子町にて日本のロケット打上げの最前線現場である種子島宇宙センター施設見学、宇宙技術館の見学を実施しました。また、水ロケット競技など宇宙ホンモノ体験活動に加え、中種子町でのウミガメ学習、ビーチコーミング（西之表市）など自然と歴史ある種子島の自然体験活動を通して環境問題を学習し、野外学習では、夜の天体観測を行い、美しい星空を見て楽しく星座や宇宙について学びました。

YACレポート in 種子島

【目的】子ども達にロケットの打ち上げを初めて間近で見る緊張感、興奮、感動を体感させる。そして、全国から集まった仲間と共同生活を通してコミュニケーションの大切さを学ぶことを目的とする。

【時期】平成25年8月3日～6日 3泊4日

【参加学年】小学4年～中学3年の男女

【参加人数】YAC団員26名、一般5名 計31名

【実施内容】ロケット打上げの機会に合わせ、

「ロケット」や「こうのとりのぼり」それぞれの目的について三菱電機(株)職員を講師に招き事前勉強会を行った。そして翌朝、長谷公園よりロケット打上げの様子を全員で見学した。ロケット打上げ見学のほか、自然豊かな種子島でシーカヤックの体験やウミガメ学習と子ガメに触れる体験を行った。そして、地元民家に宿泊する民泊体験を行い地元の人達と交流を深めた。



【実施結果】初めて見るロケット打上げの感動と共に3泊4日の様々な体験を通じて、子ども達の豊かな成長に寄与する活動を行うことができた。参加者の中には、取材レポートを夏休みの課題として取り組み、タイトル「～未来への一歩を研究中～」のレポートが奄美大島地区で優秀賞を受賞した。

(2) つくばスペースキャンプ

つくばスペースキャンプA日程

【目的】 工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【時期】 平成24年8月5日～6日 (1泊2日)

【場所】 JAXA筑波宇宙センター、つくばエキスポセンター、フォンテーヌの森キャンプ場

【参加人数】 体験者21名、引率者3名 (リーダー兼事務局2名、事務局1名)



- 【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団
【協 力】 宇宙航空研究開発機構、AES、スペースサービス
【実施概要】 最初に筑波宇宙センターの中の施設を見学した後、宇宙ホンモノ体験として、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験を行いました。つくばエキスポセンター見学とプラネタリウム鑑賞、宿ではYACリーダーによる宇宙飛行士に求められる力について の話と、交流会を行いました。

銀河教室inつくばキャンプ

- 【目 的】 工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的としました。
- 【時 期】 平成24年8月19日～20日（1泊2日）
- 【場 所】 JAXA筑波宇宙センター、つくばエキスポセンター、フォンテーヌの森キャンプ場
- 【参加人数】 体験者36名、引率者2名（リーダー5名、事務局2名、取材2名）
- 【主 催】 公益財団法人日本宇宙少年団、毎日小学生新聞
- 【共 催】 新日鐵住金㈱
- 【協 力】 宇宙航空研究開発機構、AES
- 【実施概要】 最初に毎日小学生新聞に「銀河教室」を連載中の的川泰宣先生による宇宙開発についてのお話、その後、宇宙ホンモノ体験として、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験、新日鐵住金の研究者の方の「鉄と命、宇宙」の講義を受けました。

宿では、リーダーによる4次元デジタル宇宙ビューワー（ミタカ）を使った皆既日食の再現やボイジャーの軌道を疑似体験。2日目は、筑波宇宙センターの中の施設を見学した後、JAXA若手職員5名の



話と質疑応答。毎日小学生新聞編集長より修了書を授与しました。

つくばスペースキャンプB日程

【目的】 工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的としました。

【時期】 平成24年8月23日～24日（1泊2日）

【場所】 JAXA筑波宇宙センター、つくばエキスポセンター、フォンテーヌの森キャンプ場

【参加人数】 体験者16名、引率者3名
（リーダー兼事務局2名、事務局1名）

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】 宇宙航空研究開発機構、AES、スペースサービス、アップルストア銀座



【実施概要】 最初に宇宙ホンモノ体験として、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験を行いました。

つくばエキスポセンター見学とプラネタリウム鑑賞、宿ではYACリーダーによる宇宙飛行士に求められる力についての話と、交流会を行いました。筑波宇宙センター展示室を見学した後、「きぼう360°」アプリを体験（Appleストア銀座との中継）。JAXA職員解説による筑波センター敷地内特別見学を行いました。

YAC筑波スペースキャンプ2014春

【目的】 工作や天体観測等、宇宙を題材とした学習に加え、JAXA筑波宇宙センターで行われている宇宙飛行士訓練模擬体験を通し、宇宙飛行士にもとめられる「コミュニケーション能力」や「場をなごませる力」を学び、仲間作りの方法や社会のルールを学び、心や将来の夢を育む人材育成に寄与することを目的とします。

【タイトル】 YAC筑波スペースキャンプ2014春

【時期】

①コース 平成26年3月24日～26日（2泊3日）

②コース 平成26年3月25日～26日（3泊4日）

【場所】 ①②コース共通 JAXA筑波宇宙センター、つくばエキスポセンター、フォンテーヌの森キャンプ場 ①コースのみ 日本科学未来館、JAXA東京事務所

【参加人数】 ①コース9名②コース13名 計22名（うちYAC団員21人）

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】 宇宙航空研究開発機構

【実施結果】 宇宙をテーマとした活動を班行動で実施する中で、特に有人宇宙活動における知識や、コミュニケーションの重要性を体験を通して学ぶ機会を提供することができました。また、これまでのスペースキャンプでは初めてとなる、4月から新4年生となる小学3年生の参加を受け入れ、特にグループ活動の中での仲間との協力、安全行動について学んでもらうことができました。

【実施概要】 24日は①コースの参加者が日本科学未来館の見学の後、JAXA東京事務所の展示ロビーの見学を行いました。25日は①コース参加者と②コース参加者が合流し、4班に分かれてJAXA筑波宇宙センターの展示室で「宇宙飛行士」「人工衛星」「ロケット」「宇宙ステーション」と各班ごとにテーマを設定して詳しく調べ学習を行い、調べた内容を他の班に伝えました。つくばエキスポセンターでは展示室の見学の他、星や生命のつながりをテーマに作られたプラネタリウム映像作品「ETERNAL RETURN-いのちを継ぐもの-」を鑑賞、宿では参加リーダーによる話と、交流会を行いました。

翌26日は宇宙ホンモノ体験として、JAXA筑波宇宙センター職員による特別プログラム「ミッションX」を体験した後、閉鎖環境適応模擬訓練、緊急対処模擬訓練、船外活動模擬訓練、宇宙ローバー操作模擬体験を行いました。

(3) 国際交流

ミッションXオランダ

【目的】 ミッションXは、宇宙飛行士式トレーニングを通して子ども達が楽しみながら宇宙飛行士の健康的な食習慣や運動習慣への理解を深め、

子どもの科学的思考力、科学する心を育むことを目的とする。また、世界各国から集う青少年との交流を通して異文化体験と国際理解は、子ども達の視野を広げ、国際感覚を養う。

【主催旅行】 公益財団法人日本宇宙少年団

【協力】 宇宙航空研究開発機構（JAXA）

【後援】 オランダ大使館

【時期】 平成25年7月3日～8日（4泊6日）

【場所】 オランダ・アムステルダム

European Space Research and Technology Centre (ESTEC)
Science Center (NEMO)

【参加者】 小学5年生～中2年生

北海道、東京、愛知、静岡、広島、熊本から小学5年生～中2年生の児童生徒7名、YAC引率1名、JAXAより2名

【実施内容】 ウェルカムパーティーでは各国代表がそれぞれの国の様子を発表するプレゼンに子ども達がステージに上がって英語発表に挑戦した。ESAの運用しているロケットや国際宇宙ステーションのモジュールなどの模型の展示を見学の後に職員から重力に関する講義を受け、ペットボトル水ロケットを飛ばしたりするワークショップに参加した。そして、ESAの宇宙飛行士Andre Kuipersと交流の機会があり、握手やサインをもらった。

普段はESA職員が利用している敷地内の体育館、プールでミッションXが催され、チームに分かれて、国際宇宙ステーションの組み立てミッションに見立てた大きなパズルをやったり、有人宇宙開発にちなんだ単語を

人文字で作ったりして楽しんだ。また、宇宙飛行士の潜水訓練を担当するESAの職員から、スキューバダイビングを教えてもらった。そして、ヒューストンで訓練中のESAの宇宙飛行士と交信を行った。



【実施結果】 JAXA協力の下、世界宇宙機関が主催する本イベントに日本代表

として当財団より子ども達を派遣することができ、日本では経験することのできない数多くの体験と国際交流を通して豊かな国際感覚を養い、国際的視野を身に着ける機会を提供することができた。

白熱宇宙道場（公益財団法人三菱UFJ国際財団補助事業：民間助成金）

【目的】 宇宙及び科学に関する青少年の連携及び交流の促進を目的とし、日本の児童生徒と諸外国の児童生徒が、互いに意見交換をすることで、日本と諸外国のさらなる相互理解と国際的視野を持った人材育成に貢献することを狙いとする。

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団

【日時】 平成25年12月1日 15:30～18:30

【場所】 渋谷ヒカリエ11F・カンファレンスルーム1004

【参加者】 参加者9名（中学生5名、高校生4名）、保護者4名

【実施内容】 ベトナム・ハノイ市で開催されたAPRSAF水ロケット大会に参加しているアジア各国の児童生徒と日本の児童生徒がwebを通じた国際交流を実施した。

交信の相手は、アジア・太平洋地域宇宙機関が国を代表して選定された生徒達ということもあり、APRSAFについての解説や宇宙開発と国際協力に関係を学習するため、宇宙航空研究開発機構（JAXA）より国際経験豊かな職員を講師を招き講演や質疑応答の事前学習を行った後、グループに分かれて質問内容や順番を決めてweb交流に臨んだ。

【実施結果】 現地ハノイに行かなければこのような諸外国の同世代の生徒と交流する機会が得られないところ、インターネットを利用しての間接交流は、低コストで容易に多くの人とコミュニケーションをとることができるところが最大のメリットです。しかし、その一方でインターネットを利用した交流体験は初めての試みであることや対面での



交流と比較したときに子ども達がどこまでコミュニケーションが取れるか不安な面もあった。しかし、日本の生徒達も「水ロケット」の知識や経験を持ち合わせていたことで、「水ロケット」の話を中心に交流を楽しむことができた。

3 宇宙及び科学に関する青少年の人材育成事業

宇宙、科学技術の学習や楽しさに触れてもらい、子どもたちを育成する。

若田宇宙飛行士の宇宙滞在におけるリアルタイム交信イベント

(コニカミノルタ株式会社、株式会社ケー・イー・シー協賛金事業：
公益事業収入)

【イベントタイトル】

Space Kids Platform 「コニカミノルタ Presents YAC 天空未来教室 2014」

【目的】 本事業は将来を担う青少年を対象に国際宇宙ステーション滞在中の若田宇宙飛行士との交信を通じて青少年の宇宙への興味・関心を一層高め、夢や希望を育むことを目的とします。

【テーマ】 地球環境および国際協力

【主催】 公益財団法人日本宇宙少年団 (YAC)

【共催】 コニカミノルタプラネタリウム株式会社、キャナルシティ博多、四日市市立博物館、さいたま市宇宙劇場、神戸市立青少年科学館、岡山県青年館、高知市こども科学図書館

【特別協賛】 コニカミノルタ株式会社、株式会社ケー・イー・シー

【協力】 独立行政法人宇宙航空研究開発機構 (JAXA)、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所、コニカミノルタ株式会社 (コニカミノルタプラザ)

【技術協力】 ブラザー工業株式会社

【後援】 内閣府宇宙戦略室、文部科学省、情報通信研究機構

【実施日】 平成26年1月14日 (火) 交信時間 20:40~21:00

【会場】 東京都、福岡県、三重県、埼玉県、兵庫県、岡山県、高知県、の7箇所にて同時並行開催

- ①東京 コニカミノルタプラネタリウム“天空” in 東京スカイツリータウン
- ②福岡県 キャナルシティ博多
- ③三重県 四日市市立博物館
- ④埼玉県 さいたま市宇宙劇場
- ⑤兵庫県 神戸市立青少年科学館
- ⑥岡山県 岡山青年館
- ⑦高知県 高知市こども科学図書館

【参加対象】 小年生～中学生と保護者

【募集方法】 専用応募ページを開設

【参加総数】

会場	総人数	子ども	大人	来賓	スタッフ関係者
“天空” in 東京スカイツリータウン	189人	62人	62人	15人	50人
さいたま市宇宙劇場	73人	33人	27人	2人	11人
四日市市立博物館	242人	126人	102人	5人	9人
神戸市立青少年科学館	237人	120人	107人	0人	10人
岡山県青年館	173人	73人	78人	0人	16人
高知市子ども科学図書館	180人	63人	79人	3人	20人
キャナルシティ博多	134人	46人	45人	9人	34人
	1,228人	523人	500人	34人	150人

【実施内容】

《希望会場で放映（15～30分）》

- 第54次日本南極地域観測隊による現地での研究・観測等の映像を交え、昭和基地の紹介や隊員の皆様からのメッセージ(約15～30分)



《会場共通プログラム（20～30分）》

国立極地研究所副所長 本吉洋一氏 講演



《会場全てに交信説明（20分）》

- ISSとの交信できる仕組みと交信の際に生じるタイムラグ（8秒時差）の説明。
- 全会場の質問者の質問する順番、および質問者の待機場所の確認。



《若田宇宙飛行士との交信（20分）》

- 総司会者の呼びかけに従い東京会場からスタートして全会場の代表質問（1人～2人）が巡回する。

【メディア露出】

JAXA 若田宇宙飛行士の活動状況（2014年01月15日）

http://iss.jaxa.jp/iss/jaxa_exp/wakata/news/140115.html

NASA TV での交信の様子 (youtube 動画)

http://www.youtube.com/watch?v=YdNYQfc6A28&list=PL2aBZuCeDw1T56jTrxQ3FExn-dtc_hlwsZ&feature=share

NHK（動画あり） 若田宇宙飛行士 子どもたちと交信

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20140115/k10014488221000.html>

朝日新聞 若田さん「給湯器からの煙にヒヤッ」 小中学生と交信

<http://www.asahi.com/articles/ASG1G7JRFG1GUEHF01S.html>

山陽新聞 宇宙の若田さんと児童ら交信 7都県、岡山会場は80人

http://www.sanyo.oni.co.jp/news_s/news/d/2014011422494581/

時事ドットコム 宇宙の若田さんに歓声＝各地の子どもたちと交信

http://www.jiji.com/jc/c?g=soc_30&k=2014011400952

産経ニュース 宇宙に夢「僕も飛行士に」ISS滞在・若田さん小中生と交信 埼玉

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/140114/stm14011422260003-n1.htm>

毎日新聞 雑記帳:「宇宙で怖かった体験は？」若田さんと交信

<http://mainichi.jp/select/news/20140115k0000m040116000c.html>

朝日新聞 若田さんと中学生が交信

<http://www.asahi.com/articles/CMTW1401151100008.html>

高知新聞 高知市子どもら宇宙の若田さんと交信 歓声と拍手、次々に質問

<http://www.kochinews.co.jp/?&nwSrl=314056&nwIW=1&nwVt=knd>

日テレNEWS24 宇宙飛行士若田光一さんと子どもたちが交信 (高知県)

<http://news24.jp/nnn/news8774308.html>

山口宇部経済新聞 若田さん、各地の子どもたちと交信

<http://yamaguchi.keizai.biz/gpnews/46570/>

日本経済新聞 若田さん「宇宙から国境見えない」小中学生と交信

http://www.nikkei.com/article/DGXNASDG1406G_V10C14A1CR0000/

産経ニュース 「宇宙から国境は見えない」若田さん小中学生と交信

<http://sankei.jp.msn.com/science/news/140114/scn14011423280000-n1.htm>

西日本新聞

http://www.nishinippon.co.jp/nnp/f_toshiken/article/63575

KBC九州朝日放送

http://www.kbc.co.jp/top/news/lbi/kbc_0014.html

(14日23時に同じ内容でTVニュースでも放映)

Twitter 若田光一宇宙飛行士

「日本宇宙少年団の皆さん、昨日のISSとの交信イベントでは素晴らしい質問をありがとうございました。皆さんの夢、目標に向かって頑張ってください！」

https://twitter.com/Astro_Wakata/statuses/423452225310957568

読売新聞 若田さん宇宙からエール「前に進め」

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kochi/news/20140115-0YT8T01111.htm>

CTY-NET Online (四日市のケーブルテレビ)

<http://www.cty-net.ne.jp/> (トップページ)

http://www.cty-net.ne.jp/streaming/cms/st_more.cgi?d=2&c=10998

朝日新聞 (三重) 宇宙の若田さん教えて 四日市の児童が交信

<http://www.asahi.com/articles/ASG1H4FSOG1HONFB00L.html>

日本宇宙少年団岡山桃太郎分団 facebook

<https://www.facebook.com/momoyac>

コニカミノルタ facebook Giving Shape Ideas

<https://www.facebook.com/konicaminolta.message>

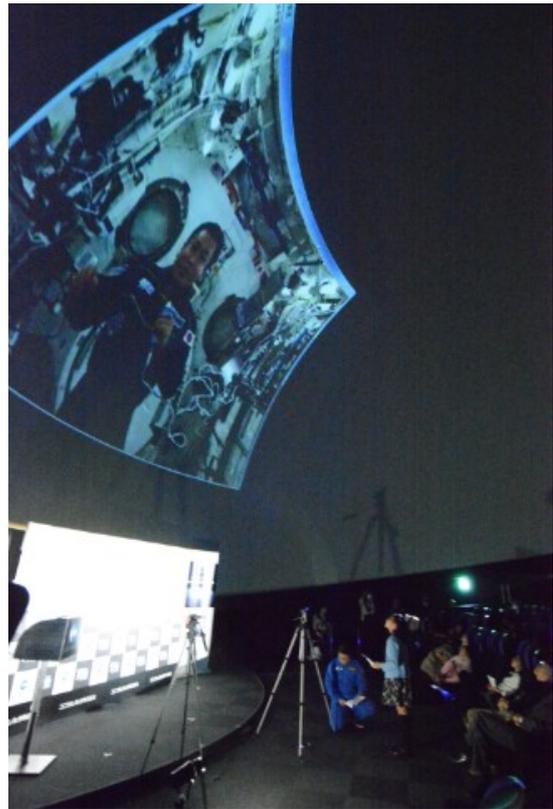
【実施結果】

当日の交信は何が起こるか分からない状況と緊張感に溢れていたが、若田宇宙飛行士が画面に映し出された瞬間に歓声が上がリ、7会場の質問者全員が途切れることなく時間内に若田宇宙飛行士と交信することができた。

このイベントを通して、科学に対する興味・関心や新しいことを知ることに喜びだけでなく、参加した全員が、大きな夢や希望、目標をもって生きていくことの大切さを学ばせることができた。また、今回の開催は、イベントの趣旨に賛同してくれた全国各地の方々との協力を得て実現することがで

きた。協力を惜しまず、そして成功を喜んでくれる全国の子供たちがいることが次への大きな原動力となる大きなイベントでした。

なお、東京会場以外ほどの施設も初めての取組みとなり、回線の接続チェックや音声チェックなどのインフラ整備に時間を要し、事前準備等が不十分であったことが課題として残った。



衛星データ利用コンテスト（棚橋電機(株)使途指定寄付金事業：民間助成金）

【目的】 昨年に続き、全国の小中学生～高校生を対象に、人工衛星のデータに興味をもち、衛星データを利用することによって様々な発見を見つけ出し、更に自ら課題を持って探究する力を養うことを目的とします。

【実施期間】

- 第2回衛星データ利用コンテスト

募集：平成25年1月24日～5月31日(当初締切3月29日より延長)

表彰結果の発表：平成25年8月9日

- 第3回衛星データ利用コンテスト

募集：平成25年11月29日～3月25日

【実施方法】 ホームページ、募集チラシ配布による募集

【実施結果】 応募作品からは、専門家も使うような高度な解析にチャレンジしたり、衛星データ以外の情報も組み合わせて環境や社会について考えた作品が多くみられた。地球観測衛星のデータ利用を通して、ただ観察するだけでなく、疑問に思うことを調べ、地上で何が起きてるのかを考える機会を提供することができた。

【実施概要】 用意された様々な衛星データの中から自分のテーマに沿った画像

データを選び、その分析した結果をレポートに取りまとめた。応募の中から特に優れたレポートに対して、個人や団体に分けて表彰し、ホームページで紹介した。

4 その他の事業

宇宙教育テレビ

【目的】 宇宙教育テレビを通して、子ども達が宇宙に関する知識を学び、宇宙への興味や関心を引きつけ、宇宙を身近なものとして親しんでもらうことを目的にJAXA宇宙教育センターと一緒に放送・配信しました。

【タイトル】 宇宙教育テレビ

【放送】

4月～6月 月2回実施(第2、4木曜日) 19時00分～19時45分

7月～3月 月1回実施(水曜日) 19時00分～19時45分

※ロケットの打上げやイベントがある月には変更。

【実施概要】 宇宙関連トピックや宇宙教育イベントに合わせて、放送番組の内容を立案し、その情報をインターネット番組で放送・配信しました。

番組には宇宙及び科学技術の専門家による解説を交えて子どもや一般視聴者に向けて、分かりやすく紹介していきます。また、番組中に子ども達からの宇宙に関する不思議や質問を書き込み形式でもらい、その質問に対し、専門家が直接回答することで番組の一体感(交流)を深めました。



宇宙情報誌の発行・編集協力等

【目的】 JAXA宇宙教育センターと一緒に発行している宇宙情報誌「宇宙のとびら」に情報提供・原稿執筆や編集等の協力を行い、全国のYAC活動を広く一般に知ってもらうことを目的とします。

また、YAC団員の特典として本冊子を配布することによって、子ども達の宇宙及び科学に関する知識の普及啓発をより一層促進することを目指します。

① 宇宙情報誌

宇宙及び科学技術に関わる最新の情報や科学実験の紹介を子ども向けに紹介し、宇宙教育活動レポート、イベント情報等を掲載する情報誌の発行・編集協力を行いました。

【冊子名】「宇宙(ソラ)のとびら」

【発行等】発行・編集協力：公益財団法人
日本宇宙少年団 発行回数：
年4回(6, 9, 12, 3月)



② 宇宙情報ウェブページ

「宇宙のとびら」のウェブ版「宇宙のとびら-net」への情報提

供を行いました。

【発行等】 情報提供：公益財団法人日本宇宙少年団 発行回数：年6回（5, 7, 9, 10, 12, 3月）

ホームページ

【目的】

ウェブページでの情報発信を行うことにより、青少年を対象に宇宙及び科学に関する知識の普及啓発を促進し、そしてインターネットを利用した宇宙教育活動を推進することを目的とします。

① 公益財団法人日本宇宙少年団のウェブサイト

(<http://www.yac-j.or.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団の概要、沿革、団員募集、賛助会加入の企業・団体・個人など、業務・財務に関する資料、連絡先を掲載しました。

② 日本宇宙少年団団員活動コミュニティサイト

(<http://www.yac-j.com>)

お知らせ、宇宙教育テレビ、メディアでの掲載記事、団員の活動予定、活動報告、活動ビデオ、イベント情報、教材研究を掲載しました。

③ スペース・キッズ・プラットフォームサイト

(<http://www.yac-skip.jp>)

公益財団法人日本宇宙少年団が、企業、団体との連携により展開する事業の紹介。募集告知を掲載しました。

Webの利用事業

【目的】

Webを利用して宇宙教育にかかわる様々な組織や団体との連携を潤滑にし、それぞれが研究・開発、作成した素材を相互活用できることを目的とします。

【実施概要】 宇宙教育の指導マニュアルや、活動教材を整備し Web サイトで公開します。その他、活動に役立つような情報、団員募集や催事参加の募集、そして旬な話題等、Web を通じて紹介しました。

連携団体との連携協力

【目的】

財団と協力してYAC分団活動の推進を目的に分団からの相談、アドバイス、プログラムコーディネート等の支援を行いました。

【実施概要】

新規分団の結成支援では、宇宙教育活動を「長く（活動を長く継続する）、広く（広く地域に拡大する）、深く（内容を深め、学びを深める）」実践するためのアドバイス、それに伴う必要な予算の確保のノウハウ提供、社会教育を実践する上で最低限の知識を学び、社会へ質の保障を行うためのSELセミナー受講のアドバイスをを行い、また、地域主導型コスミックカレッジ開催のためのアレンジやアドバイスなどの支援を行いました。

平成25年度に分団結成に係る相談を受け、分団設立に至った分団は次のとおりです。

- 大阪分団（平成25年4月14日結団）
- 千里分団（平成25年6月9日結団）
- 岡山桃太郎分団（平成25年6月22日結団）
- 花巻分団（平成25年10月12日結団）
- 手賀沼カップ分団（平成25年10月14日結団）

連携団体長会議

【目的】 年1回 YAC 分団長が集う場として連携団体長会議を設け、財団との連携協力の強化を図ることを目的にYAC分団活動が活性化するための方策を検討することや活動組織相互の情報交換等を行います。

【実施期間】 平成25年11月2日～3日

【実施場所】 JAXA筑波宇宙センター

【参加人数】 分団長43名、その他16名（分団事務局などオブザーバー）

【実施概要】 北アルプス大町分団長丸山卓哉氏を議長に選出、公益YACから公益財団法人の業務運営状況について報告し質疑応答を行ないました。

また、活動委員会から平成25年度中間報告と計画の説明を行なった後、平成26年度、27年度の全体活動プログラムとして、「もし私が宇宙へ行って仕事をするなら」、「もし私が宇宙へ行けたらやってみたいこと」の提案があり出席者に認められました。

1日目の最後には特別講演としてイプシロンロケットプロジェクトチームサブマネージャ井元隆行氏から「イプシロンロケット」について特別講演がありました。

2日目は、各地区毎の協議会を開催、地区分科会テーマ（地区内の活動について/地区内の情報交換/要望事項等）について話し合わせ、その結果については、全体委員会で発表されました。

最後にこれからのYACの望ましい活動として、出席者から活発なご発言をいただきました。

Ⅱ 平成25年度の法人運営（法人会計）

（公財）YAC は、昨年度、将来にわたって継続的に公益法人としての使命を果たせるよう、運営実施体制の抜本的な削減を行い、経営基盤の立て直しを図りました。

結果、平成25年度期末には、人件費の削減、事務所移転を含む大幅な管理運営の効率化が達成され、公益事業の継続が可能な極めて簡素な運営体制を整備できました。

（公財）YAC は、YAC 活動を推進する基盤組織であり、今や、運営の効率化の段階から、事業の拡大・発展及びYAC活動のさらなる発展を目指す段階に入りつつある、と認識しています。

1. 評議員会、理事会

平成25年度には、次の評議員会、理事会を行い、事業運営にあたりました。

（1）定時評議員会

日 時 平成25年6月17日（月） 15時00分～17時00分
場 所 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア 503会議室

決議事項

第1号議案 評議員の交代について

第2号議案 平成24年度事業報告書(案)及び決算書(案)について

第3号議案 定款の変更について

第4号議案 主たる事務所の所在場所の変更について

報告事項

諸規定の制定について

（2）理事会

ア 第1回理事会

日 時 平成25年6月14日（金） 14:00～17:00
場 所 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェアB1Fプロジェクトルーム011

決議事項

第1号議案 平成24年度事業報告書（案）及び決算書（案）について

第2号議案 諸規定の制定について

第3号議案 主たる事務所の所在場所の変更について
報告事項

- (1) 定款の変更について
- (2) 評議員の交代について
- (3) 役員賠償責任保険の加入について

イ 第2回理事会

日 時 平成25年10月15日(火) 14:07~17:07

場 所 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア503会議室

決議事項

第1号議案 事務局体制の変更について

報告事項

- (1) 平成25年度事業の実施状況について
- (2) 平成25年度財団運営状況について
- (3) 団員及び分団の状況について

ウ 第3回理事会

日 時 平成26年3月14日(金) 14:20~17:30

場 所 東京都千代田区神田錦町3-21

ちよだプラットフォームスクウェア501会議室

決議事項

第1号議案 平成26年度事業計画書の承認の件

第2号議案 平成26年度収支予算書の承認の件

第3号議案 評議員会に決議の省略を求める件

第4号議案 寄附金制度の整備の件

第5号議案 就業規則の整備の件

第6号議案 事務局員の選任及び体制整備の件

報告事項

- ・ 平成25年度事業運営状況の報告
- ・ 財団 YAC の財務改善概況の報告
- ・ 活動委員会の活動状況の報告
- ・ 分団の連携団体承認について

2. 財務概況

ア 前年度(平成24年度)期末の状況

- ・ 事業基盤を強化するため、一般財産812万円を基本財産に充当し、基本財産を5,000万円といたしました。
- ・ 将来の公益事業に充てるため、1,600万円を計上いたしました。

積立金名称	特定公益事業 の概要	実施時期	積立金額
日本宇宙少年団30周年記念事業積立金	YAC 宇宙教育シンポジウムの開催	平成27年11月	800万円
宇宙子どもワークショップ記念事業積立金	宇宙子どもワークショップの開催	平成26年8月	800万円

イ 平成25年度期末の状況

- ・ 一般財産812万円を基本財産に充当し、基本財産を5,000万円として維持しています。
- ・ 将来の公益事業に充てるための積立金1,600万円を維持しています。

現在、活動委員会において、この積立金を活用して、今後のYAC活動の発展のために、全国の分団等が一斉に同じ活動に取り組むなどの実施計画を見直し・検討しております。

以 上